

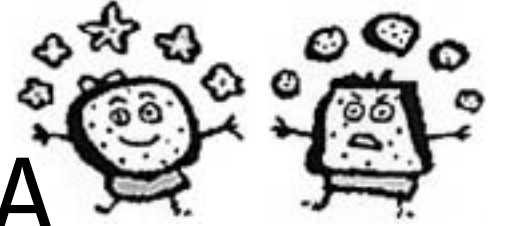
満足と満足をつなぐ、私たちの石文化だより

編集/“いよせき倶楽部”編集部



いよせき倶楽部

C & A
Communication & Answer



第179号

いよせき株式会社 〒793-0053 愛媛県西条市西ひうち3-21 Tel. 0897-55-1414 Fax. 0897-56-1454 E-mail: info@iyoseki.co.jp

石のこれから



■瀬戸内の名石「大島石」



先週大島を訪問させていただきました。大半の丁場が立て掘りを余儀なくされ、立て掘りの深いところは50~80mくらい垂直に掘り下げています。採石作業には高度な技術が要求されるでしょう。安全性を確保しながら限りある資源を如何に長期的に使用していくか？そして如何に地元の名石大島石に付加価値を付けて販売していくかが私達の責任だと思います。

石材を通して如何に採石業者・仲買人・販売小売店の流れで、それぞれが利益を出せる考えややり方が今後の課題になっていくと感じました。 [木村]

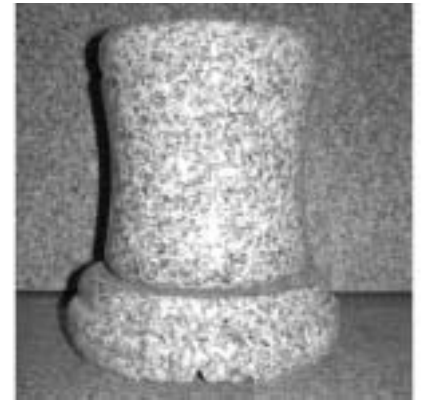


新製品

〈コップ台付きTU型〉

従来のコップT I型にくびれを付け、持つときに滑りにくくしました。見た目もスマートになり和墓によく合います。

〔サイズ〕 コップ/3x3x4(寸)
台/4x4x1(寸) [上野]



石のこころ 高知

「青木石」

20年程前、高知では石塔を中心に青木石がよく使われておりました。独自の青みを持ち細目で石自体に粘り気があり、加工がし易く加工持ちが良いと言われていたのが理由です。この石は香川県丸亀市の石で瀬戸内銘石として現在でも使われております。近年では種類は6種ほど扱っており色も黒口、白口、中口など様々です。最近では石塔も中国材がほとんどになり、大島石や庵治石、青木石など国内材の利用が少なくなっています。

色目種類の豊富な現在の青木石をまたお使いになってみませんか？

[折本]

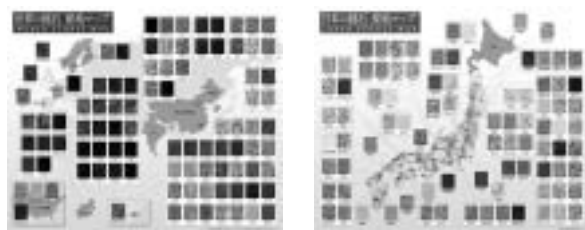
トレンドウォッチ Trend-watch 徳島

「銘石の産地マップ B2大ポスターのご紹介」

墓石に使用される石は300種類を上回ると言われます。建築材を含めるとその数はさらに多いものとなるでしょう。お客様とカタログを開きながら、どんな石があるのかと商談されることが多いことと思います。冊子カタログは見比べにくく、商談に意外と時間がかかっているのではないのでしょうか。

そこで、今回は、一目で主要国産石材の産地がわかる販売促進ツールの御紹介です。「日本の銘石86種」と「世界の銘石95種」との2つのバージョンがあります。大きさはB2サイズ(728x515mm)で1部1,500円となっております。お客様との話題作りとして、店舗のイメージアップとしてお勧めします。詳しくは各営業までお問い合わせください。

[神野]



石の豆知識

大地の恵みへの想い

- ①岩石・・・人間の判断基準や知識で石自体の品質を決める事はできない。石の出来方によって性質が異なる。大きく分けると火成岩・堆積岩・変成岩に分けられる。
火成岩・・・地球のマグマが冷え固まって出来た
堆積岩・・・堆積物が固まって出来た物
変成岩・・・熱と圧力変性で出来た物
- ②墓石に使われる原石・・・殆どが花崗岩（一部閃緑岩・安山岩）
花崗岩・・・地下深いところでマグマが長い年月をかけてゆっくり冷え固まって出来た岩石→それが隆起活動により地表に現れる。
・さまざまな条件が折り重なり、鉱物の結晶が模様となり色合いや目合いとなる
花崗岩・・・深成岩（酸性） 閃緑岩・・・深成岩（中性）
安山岩・・・火山岩（中性）
- ③石本来の力
・石は呼吸して水も吸う・・・石は水分を含有することで安定している
・研磨することで水分を入れにくく、出しにくくなる。風合いも変化する。目ずきの多い石は水分を入れやすく出しやすい。
・逆にきめの細かい石は研磨される事で排水が苦手となる
・石の目を通る不純物は内部に引き込む（割り肌・小タタキ・ビシャン）
叩いた石が汚れるという認識は周辺環境による石は出来上がりから環境に馴染み、変化しづらい
・吸水率や硬度は試験検体だけの数字結果
同じ石でも試験結果は違う数値が出る
・自然が作り上げた模様は、人では操作できない

[永井]

編集後記

いよいよ西条祭りが近づきました。御時間のある方は是非西条にお越し下さい。
(伊藤恵)

お客様の声
営業の方によくして貰っています。これからも宜しくお願いします。
(R建設様)

◆石の市 平成21年10月19日(月)
お買い得品が満載！
いよせき社員が考案作成した伊予青石オリジナル新商品、多数展示。
ご期待ください!!
[藤原]

お知らせ

Information

2009年9月1日
白木秀典

・私ども石材業界だけでなく、すべての業界で消費が減退しており、企業として戦うのは同業他社でも異業種参入でもありません。戦うというか、目を向けるべきは変化する消費者のニーズです。今、どのように消費者のニーズが変化しているのかというと、明らかに安心、安全、環境です。石材業界でも先日の業界の集まりで同様の事が話し合われました。しかしながら、個々の企業としても、業界団体としても、そのテーマに即した商品やサービスを開発し、提供しているケースは少ないように思います。これからは具体的な商品として、サービスとして提供していければと思っています。石への永遠の念いを安心してお任せしていただける、そんな企業でありたいと思います。

永遠の念い

社長白木の

